

看護の専門性を貫く看護管理実践上の指針 —病棟師長としての自己の看護 管理実践の分析を通して—

原田真理（応用看護学）

【キーワードズ】 看護の専門性、看護上の問題の解決、
看護管理実践、対象理解、看護観の発展

本研究は、病棟看護管理者としての自己の看護管理実践を分析し、看護の専門性を貫く看護管理実践上の指針を導き出すことを目的とした。

研究対象は、看護師が対応困難と捉えていた対象および看護チームに働きかけた自己の看護管理実践過程である。

研究方法は、患者の入院から退院までの約2カ月間、その後の受け持ち看護師との面接、研究会誌への実践報告の投稿を経て、師長会での看護部長の評価を病棟看護師に伝えるまでのプロセスを振り返り、看護管理者の判断と働きかけが対象と看護チームに影響したと思われる11局面を研究素材とした。局面ごとに〈対象の言動・状況〉〈師長の認識（瞬時の認識）

（想起した認識）〉〈師長の表現〉の項目に分けて研究素材を作成し、研究素材を精読して、師長が〈何に着目したのか〉、看護上の問題をどのように捉えて解決したのか〈解決を要する対立と解消・調和〉の視点で構造を捉えた上で、〈看護管理者の認識と表現の特徴〉を明らかにした。抽出された特徴の共通性・相異性を検討し、科学的抽象により、看護管理実践上の指針が以下のように取り出された。

1. 標準的看護計画では整わないことが予測される
とき、対象の思いや背景となる特殊な生活過程に
着目し、個別の看護計画をチーム全体で検討する。
2. ナースから対応困難の相談を受け、状況が描け
ない時、対象に直接かかわり、看護上の問題を探
りながら対象を整える。
3. 師長が直接かかわって得た対象の反応をナース
に伝え、看護上の問題と解決の方向性を助言する。
4. 医学的判断と説明内容を看護の立場で理解し、
その内容と意図を看護チーム全体で共有し、看護
実践に繋げる。
5. ナースの関わりが対象を消耗させていることが
分かったとき、ナースの頭に対象がどのように描
かれているかに着目し、ナース、患者・家族、記
録類から事実を確認する。
6. 看護の方向性を検討するカンファレンスの場では、
個々のナースの頭に描かれている対象像の表現を
促し、看護の視点で対象の全体像を捉え、ナース
達が描く対象像が近似的に重なるようにする。
7. 看護の方向性を統一した後にも、対象が良い方
向に整わないという相談を受けた時には、全体像
を描いて対象に関わり、対象の反応から看護の方
向性の妥当性を確認し、ナースの支える力を強化
する。
8. 看護の本質を貫く理論基盤に導かれた院外事例
検討会を活用し、チームで検討した対象理解と看
護の方向性の妥当性を確認して、その内容をフィ
ードバックし実践につなげる。
9. ナースの看護観に変化をもたらしたと実感する
看護体験は、振り返る機会をつくり、看護観の発
展とキャリア開発に繋げる。
10. 看護の喜びと達成感を実感した実践は、言語化
して、看護部組織理念に繋げ、他の看護職者と共
有する。